

産婦人科の開設 単独で無理なら広域で



広域での産婦人科診療の開設について



すということとは、まず出産するところがなければ誰もこない。産婦人科の場合は、急を要する。1市では無理なら広域ではどうか。今やらなければやるときがない。

保健福祉部長

今後も、きぬ医師会と連携を図り、産婦人科の開設に向けて継続していきたい。

市長

つくばみらい市、坂東市、常総市にも産婦人科が一つもない。これは地方創生の子どもを産み育てる環境づくりにはなっていない。医療機関の誘致について国に申請すると、助成金がもらえる制度がある。3市の首長同士でも協議を進めていく。

議員

保健福祉部長

広域での産婦人科診療の開設について

市内には、分娩できる産婦人科医療機関は残念ながらない。

市では、坂東市、つくばみらい市の3市で構成しているきぬ医師会病院運営協議会の中で、きぬ医師会においても管内に分娩できる産婦人科医療機関の開設を重要課題として、各方面にはたらきかけている。

議員

市長の持論で市の人口を増や



石下福祉センター周辺整備計画について

今あるものを活用した市のPR

議員

東部拠点、主に歴史的背景をもとにしたまちのシンボルである地域交流センターを含めた今後の周辺整備計画について尋ねる。

企画部長

平成10年度から順次総合福祉センターや石下庁舎の整備を行っている。また、昨年策定した、まち・ひと・しごと総合戦略の中で、大きな柱として交流センターとその周辺開発の位置づけをしている。具体的には、交流センター本体の改革はもちろん、周辺の景観整備も含めた農産物等の買い物ができる場の整備構想である。

議員

結城市にあるアクロスはアクセスも良く非常に稼働率が高い。常総市にお城があるということとは、かなり浸透している。圏央道が開通して、行ってみたい、立ち寄りたいたいと思うような、そういう意味から今後の対策についていかがか。

企画部長

市のシンボルとして人が集うにぎわいの拠点到整備し、交流人口を増やしていく。

議員

今あるものを活用し、いち早く市をアピールしていくことが大事。その点についていかがか。

教育部長

今年度は、交流センターの資料展示をデジタルミュージアムへ改修、市民が気軽に集えるサロンのな場所に改修。来年度はトイレ改修と内装工事を行う予定。企画展等のイベントを実施し、来館者数の増加に努める。

議員

まず市民から意見を聞くというのは、最も大事だと思う。稼働率を上げるかということもきちんと練って、計画に移してもいい。

